

2022年も



# 住んでるみんなが 笑顔になれる横須賀のために



日本共産党市議団

コロナ生活3年目。

マスク、手洗い、ワクチン、ソーシャルディスタンス…

社会はすっかり一変しましたが、それでも私たちは仕事に子育て、日々の暮らしを中断するわけにはいきません。最も身近な横須賀市政をしっかりチェックし、市民の切実な要求を実現させるため引き続き頑張っまいります。



ねぎしかず議員



井坂なおし議員



大村洋子議員



## 新型コロナワクチン 3回目接種がはじまります

### 65歳以上の方からスタート

1/14～ 接種券発送。予約受付が開始。

市役所・行政センター、商業施設で相談窓口を開設。

1/15～ コールセンターでも予約ができます。

(200人に増員したオペレーターが対応)

### 子育て世帯への臨時特別給付金(現金10万円)

18歳以下の児童扶養手当、児童手当対象の方の自宅にお知らせし口座に振り込まれます。上記手当の対象外の方は申請が必要です。

### 非課税世帯等への10万円給付

- ①対象は世帯全員の住民税均等割りが非課税である世帯(生活保護世帯含む)約48,000世帯。
- ②新型コロナの影響で家計が急変した世帯。約3,000世帯。

- ①については特別低額給付金等で市が把握している口座情報を基に世帯へ給付金を振り込みます。
- ②については市が把握できないので、「広報よこすか」などでお知らせし、申請を受け付け審査を行い振り込みとなります。

沖縄の米軍基地内のコロナ感染クラスターを受けて、横須賀米海軍基地内においても対策強化をと申し入れ、懇談を行いました。(要請文は市議団ホームページをご覧ください)



基地対策担当の特命参与に要請書を手渡す共産党議員団



願いが叶った!

### 市立中・高校トイレに 生理用品設置

生理用品が全市立中学校、高等学校のトイレに常備されることになりました。小学校も実情に応じた対応(例として、一部の女子トイレに常備するなど)をすることです。水道や鏡の前はイヤという声もある中で、すでに個室設置されているところもあり、喜ばれています。

ねぎしかず議員が6月一般質問で市長、教育長に設置を提案し、「新日本婦人の会」のみなさんの要望書提出、教育委員会との懇談もあり実現に結びつきました。ジェンダー平等への第1歩です。



生理用品が設置された市立中学校の女子トイレを視察する議員団



井坂議員「住宅リフォーム助成制度を本市でも行ってほしい」

上地市長「高齢者世帯など対象と手法を検討したい」

井坂なおし議員は、市内業者の皆さんから後継者育成のためにも安定した仕事の確保を望む声をお聞きし、三浦市で好評の住宅リフォーム助成制度の取り組みを本市でも行うよう、市長に提案しました。

この事業は、市内の工務店や地元業者に仕事が生まれ、コロナ禍で落ち込んでいる地域経済の活性化となることや、空き家対策などのメリットがあります。

また、コロナ禍で在宅が増え快適さを求める声や、換気や断熱・省エネなど居住性能を見直す家庭が増えており、需要のある事業です。

市長から「高齢者世帯など対象と手法を検討したい」と、前向きな答弁を引き出すことが出来ました。引き続き新規事業として立ち上がるよう、提案していきます。



# 久里浜の石炭火力発電所の稼働と温室効果ガス削減は大矛盾 市は実行計画書の中で つじつま合わせ



久里浜に建設中の石炭火力発電所が稼働されると策定中の2つの計画の進捗に影響が生じるのではないかと懸念されている。



井坂なおし議員



計画に参入しないから影響はない

「横須賀火力発電所稼働に伴う排出量を含むエネルギー転換部門の温室効果ガス排出量は、本計画での削減目標に算入しないこととします。」

横須賀市の温暖化対策実行計画

世界じゃ通用しません



ねぎしかずこ議員

COP26

2030年までの温室効果ガスの排出削減目標を、2022年末までに再検討しなさい！

グラスゴー合意

今後10年間で決定的だ。各国に加速した行動を求める。

稼働されれば年間約726万tのCO2排出。机上の計画では参入しないで済むかもしれないが、実際に温室効果ガスは出るし、これでは削減目標は達成できない。

## 温暖化は暮らしや営業にも影響 対策は待ったなし

11月9日瞬時の豪雨で上町3丁目は道路冠水が起これり家屋への浸水被害にまで至りました。下水道は、最大60ミリの降雨量に耐えられるよう整備が進んでいるものの、この時の10分最大降雨を1時間に換算した時間最大降雨量は100ミリを超えていたからです。

被害状況を調査したねぎしかずこ議員のもとには、「こうたびたび繰り返せば、もう商売を続けられなくなる」と悲痛な声も寄せられました。ねぎし議員はただちに、危機管理課や上下水道局と意見交換、ハード面の整備はもちろん、ハザードマップの現状に添った見直しなど、今できることを急いでやるよう申し入れました。



道路冠水が起きたうわまち商店街

### 問題散見の指定管理者制度 (民間委託)

福祉援護センターかがみ田苑は指導監査が未だ終わらず、現段階で2千万円を超える返還金が生じています。「重大なことだ」という認識はあるか」との大村洋子議員の質問に市長は「重大という意味がわからない」とうそぶき答弁でした。許されないことです。

市立病院は呼吸器内科の入院の再開の見通しもつかず、うわまち病院はシステムトラブルが起これり市に報告がされませんでした。

他方、「猿島」が22年4月から管理運営が民間に委託されることが決まりました。

多くの市の施設が指定管理委託となっている現在、市のチェック体制も問われます。

今後もしっかり見ていきます。



大村洋子議員

### 美術館が 市長部局へ移管

美術館は社会教育施設として教育委員会が所管していますが、2022年4月から市長部局へと移管されることとなり、日本共産党は反対しました。

これは上地市長の「エンタメ路線」や企業とのタイアップで安上がりで管理し「稼げる自治体」への変貌を狙うものです。美術館は資料収集、調査研究という大事な任務もあり近視眼的対応はなじみません。ゆくゆくは指定管理者へ管理委託し、美術館から博物館、そして図書館と社会教育施設から横須賀市は手を放していこうとする序章ではないかと私たちは懸念しています。

### 核禁条約の署名、批准を日本政府に迫る意見書 市民からの請願、またも実らず

基地があり、米空母の母港でもある横須賀は核の標的ともなりかねず、直接、住民の命にかかわる問題です。しかし、上地市長は県内の首長の中で唯一、ヒバクシャ国際署名にサインしていません。核兵器廃絶という大きな文字が刻まれたモニュメントも撤去してしまっただけでもあり、だからこそ、市議会からの意見書提出は大きな意味を持ちます。

賛成	反対
木下義裕議員 小林伸行議員 小室卓重議員 藤野英明議員 日本共産党 大村洋子 ねぎしかずこ 井坂直 以上7名	自民党 11名 よこすか未来会議 12名 公明党 7名 無会派議員 2名 以上32名 ※議長は含まれず